

Title	社会的環境からみたPC0について
Author(s)	辻野, 直三郎
Citation	makoto. 1975, 12, p. 2-2
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/86212">https://doi.org/10.18910/86212</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

# 社会的環境からみた PCOについて

財団法人 大阪防疫協会  
理事長 辻野直三郎

はじめに

石油危機を時期として日本の産業構造の高度化を担ってきた基幹重化学工業を名ざして拡張の停止、縮小、変更等世論は具的のその転換を求めて大きく動いてきた。このことは、その

## 本論

根底に流れるものとして一國経済が国際経済の中で長期的に発展するには物物理的限界があるという考えにほかならないからである。これは国際的規模で予想される非循環系物資源の不足と環境汚染に対する決定的な危機感とが結びついている。このように産業構造の転換が必要となつて、すでに産業界の一部では具体的に部分的ではあるがその

ここに私達が関係するPCO(ねずみ衛生害虫等の防除事業)について考えてみるに、近年科学的技術および産業経済の発展は国民の生活に寄与したことも事実である。しかしその反面生活環境の汚染という予測すべからざる現象を呈したことも否定することの出来ない社会の関心事でもあった。

普及であると考えてよいのではなからうか。この意味では技術変化からみた産業構造の変化予測は経済的、社会的環境の変化から予測するよりも、より確実性が大きい。

近時国民の生活様式は極めて多種多様で、このため国の機関においても種々施策を講じているところであるとして「PCO」という産業分野の位置づけについて首肯出来ないものがある、というのは行政管理局(一九七二年三月改定)が発行している「日本標準産業分類」という冊子によりこれが所見を

述べることにする。

我が国で産業分類が作られたのは昭和五年であった。実はその前に大正九年の第一回国勢調査時にも行なわれたが、これは産業と職業が混在したような分類であつて、はっきり分けられたのは前述の昭和五年である。その後幾多の経過をへて戦後、国際連合が提唱した一九五〇年世界センサスに呼応して現在の標準産業分類の作成となつたものである。この日本標準産業分類によれば、この分類とはつぎの諸点に着目して産業の種類を体系的に分類されている。

一、生産される物、または提供されるサービスの種類

二、事業所の技術的構造、原料の性質(以下省略)

となつてゐる。また適用単位は一事業所ごとになつてゐる。このように種々の取りきめによつて分類されたものの中に「PCO」は大分類「サービス業、中分類「保健および清掃業の中に

入っているのは中分類の「その他の事業サービス業」に入れられてゐる。

ちなみに中分類の保健および清掃業とは、保健衛生および清掃のサービスを提供する事業所ということになつており、小分類として消毒業があげられ、これに伝染病の予防など保健衛生上必要な消毒を行なう事業所をいうと明記され、この中には物品消毒薬電話消毒薬のみとされている。

PCO(この分類では害虫駆除業とされている)は前述の中分類では、その他の事業サービス業で、これは企業経営を対象としてサービスを行なうとなつており、そして他に分類されない事業所が分類されると記されている。そして小分類は建物サービス業となつており、これは主としてビルなどの建物を対象として清掃、保守、機器の運転その他の維持管理についてサービスを提供する事業所をいうとされている。そして建物の消毒および白ありなどの害虫駆除を行なう事業所も本分類に含まれるとある。例として床みがき業、ガラスふき業、煙突そうじ業、住宅消毒業、害虫駆除業、ビルサービス業、ビルメンテナンス業、

ビル掃除業となつてゐる。

以上の諸点によつてこの分類に疑問を持つものは筆者一人ではあるまい。

むすび

PCO協会の定款には「ねずみ衛生害虫および人体衛生上の害を与える有害生物の防除に関する高度の専門的知識の修得と技術の向上をはかり……(中略)……わが国の環境整備の保全と防疫活動を推進し、もつて住みよい生活環境の保持増進に寄与貢献することを目的とする」となつてゐる。このことにより私は日本標準産業分類上、中分類の段階においてその針路に疑念を持つものである。

省みればこれが由来するところのものは、すなわちPCOの実力の問題と洞察する。且つまた本件はPCOの身分権、業法権の単独立法以前に解決すべき重要案件でもあると確信する。はじめに述べたとおり技術変化からみた産業構造の変化予測は経済的社会的環境の変化によつて予測されるものであることを私達PCO関係者は心静かにしかも銘記して一步一步その目的に向つて着実に社会的、経済的に前進しなければならぬと考える。

(妄言多謝)